

文章作成、不適切な文の訂正の実践

1. 演習

【設問】以下の文を適切なものに改めなさい。

1. 私は統語論という言葉をはじめて聞いたけど、言語について研究するときには様々な分野があることがわかったんで、その奥深さにびっくりしました。

2. 私は思ったんですけど、日本語以外の世界の言語に興味を持つっていうことが、自分の世界を広げることになると思います。なので今勉強してる日本語だけじゃなくて、東アジアの言語、朝鮮語とか中国語とかも勉強したほうが自分のためになるって思いました。

3. 私が幼少期過ごした長崎という日本の都市に 1945 年に落とされた原子爆弾についての資料館が、長崎市内の松山町というところにあり、去年の夏そこを友人と一緒に訪れる機会を得たのだが、私の祖母も被爆して 10 年ほど前に亡くなったこともあり悲しみと怒りが入り混じった感情で展示物を見ていたのだが、友人はというとあくまで冷静に戦争の悲惨さを感じたと後で一緒に入った喫茶店でそう語っていた。

4. 若手の研究者が大学の非常勤講師などに応募するときには、経歴書や業績一覧表などが求められたりするのだが、そのときにそれまでに書いた論文の数や学会発表の数が少ないと、採用する側からこの応募者は研究活動をしていないのではないかと疑われるのが怖いという心理が働くと思う。今の若手研究者がじっくりとした研究をせず、小さいテーマでたくさん口頭発表をする理由というのは案外そういうところにあるんじゃないかって思う。

2. 実際に書くときに注意すること（配布資料：p83-84）

一文を長く直すことはしない。1つの文には1つの意味内容だけ含むのが基本である。

AÜ JPN 305 Yazılı Anlatım I 9. ders

短い文を水増ししない。→同じ内容の繰り返しになり、結果として読みにくい文章になりやすい。

「文学的なセンス」や、極端に難しい語彙は必要ない。とにかく理論的な文章として、どのような読み手にもわかりやすい文章をこころがける。

読みやすい文章は、事実の記述（または、それに基づいた自分の意見の表明）によって書くことができる。

よい文章をたくさん読むこと。文学作品だけではなく、事実の記述に基づく理論的な文章も読むことが作文能力の向上につながる（かもしれない）。

すぐに書き出さない。自分の考えをまとめてから書き始める。「まとめる」とは、「何をどのような順番で書くか」を考えることである。

書き終わったら必ず点検をする。不必要な誤字・脱字を避ける。

「書き直し」(kendi kendine düzeltme yapmak)を時間の許す範囲で、できるだけ多く行う。

一度出版・公開されたら、多くの場合訂正はできない。

【課題】

あなたが行きたい都市、または国について説明しなさい。なぜその国・地域に行きたいのかを、事実の記述に基づいて説明すること。

【目的】

- 「一般的な事柄を、事実の記述と資料に基づいて説明する」ことを実践する。
- 収集した情報を整理して文章構成を行う。(B1 に引き続き)
- 相手が読みやすい文を書く練習を行う。

- これまでの講義内容で学習したことをまとめる。

【注意事項】

1. **全体で 600 字程度を目安とする。**この数字は絶対的な指標ではない。ただし、内容に極端に過不足があれば、その分評価に反映される。
2. 「です」「ます」体を使用しない。
3. 読みやすい字を書くことを心がける。
4. 段落のはじめは、字下げを行う。形式的に段落が変わっていることがわかるように書く。
5. 話し言葉と書き言葉の違いに気をつける。